

573

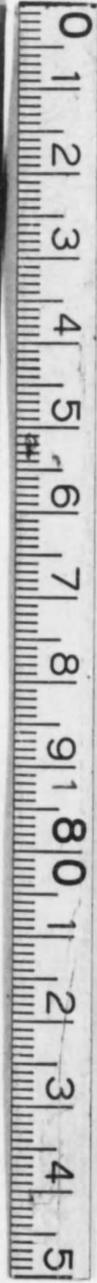
特253

335

國體明徴の話

恩田重信

38
8



始



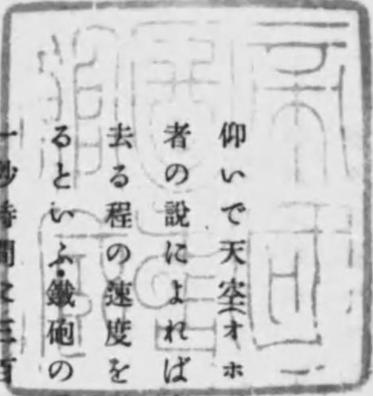
特253
335

國體明徴の話

恩田重信述

仰いで天空オホゾラを望んで見給へ空々として洵に廣漠たるものである物理學者の説によれば太陽から來る光は一秒時間に七萬二千里(日本里稱)の距離を過ぎ去る程の速度を以てゐるといふこれをメートル系でいへば三十億メートルとなるといふ鐵砲の音でも釣鐘の音でも皆空氣を傳はりて行くものだが其の速さは一秒時間は三百四十二メートルであるといふから光の速さは音の速さに較べて約八百八十萬倍である電波の速さも仲々速いそうだが日光の速さには及ぶまいと思ふ。

所で天文學者の説によれば秋の空を望んで見たときに見ゆる一番光の強い星から出て來た光で我々の眼に入るまでに經過した時間は十三年半の後だといふことである言ひかゆれば一秒時七萬二千里の速さで進んで十三年六ヶ月目に我々



の地球へ其の光が到着するものだといふことである。星までの距離の想像以上であることが諒解出来るであらう。然らば其二等星三等星乃至星雲なんていふもの處までの距離は全く想像にも夢想にも出来ぬ程の距離であらう。然も此の空間は豎にも横にも上にも下にも此の通りの莫大な距離が有るとしたらば我々の日月星辰の住んでゐる空間の如何に廣大なものかも亦想像にも夢想にもならぬことであらう。以て我々の六尺足らずの此の一肉體の如何に微小であるかも想像するがよい。

抑も此の大空間は「カント」や「ラプラス」の天體成立説によれば其の昔し眼に見えない手に觸(サハ)らぬ輕妙な不思議な氣體が充滿してゐたもので此の氣體が如何なるはずみかは計り知られないがとにかく摺鉢の中の味噌汁が摺りこぎの廻轉に連れて廻はる様に廻はり始めたのである。西洋人は此の廻轉を起した原因を神(ゴット)と稱へてゐるが或は左様かも知れぬ。支那の昔しの聖人老子は何んとも彼(カ)とも名のつけ様がなき時であるから是れを「無名」と名づけ廻轉が始つて遠心力と求心力との生じて濃淡の差の現はれた時を「有名」と名づけたのである。老子に「無名は天地の始め有名な萬物の母」とかいてあるのは此處の道理を言ふたのである。我

が日本の大切な歴史の一つである。日本書紀の序文には「天地未分の時は渾沌として雞子の如し其の輕くして清(ス)めるものは上りて天となり重くして濁れるものは降りて地となる」とかいてある。是れを天地割判の時といふのである。

然るに此の天地割判の後一人(ヒトリ)の神様が顯現されたのである。山鹿素行の「中朝事實」の一番先きに「天先づ成りて而して地が後に定まり然る後に神明其の中に生る國常立尊(クニトコタチ)のミコト」と申し奉る。云々とかいてある。神様がどうして現はれ給ふやと疑ふものもあるが此の頃の神様は皆獨生の神と申して只今生物學者が「單爲生殖」と稱する生殖の原理に由つて生れましましたので決して疑ふべきことではない。

いつの頃かは判然せぬが兩性生殖が行はれて男性の神と女性の神と二柱の神様が「ヲノコロジマ」といふ島に降臨あらせられた。それが「イザナギのミコト」と「イザナミのミコト」とであらせられたのである。即ち此の二柱の神様の御末が我々大日本帝國の萬世一系の皇統であらせられるのであり而して我々卑賤な一肉體も亦此の皇統の分派の又其の分派の末の末から生れ出たもので歸化した人間はどうかは知らぬ。苟も日本帝國の本統の臣民は必ず神統であることを自覺し名譽とせんけ

ればならぬ。

但し我々卑賤な臣民の家には家系といふものに就いての記録が不完全であるため五代十代乃至二十代先の祖父父母は如何なる血統の人間であつたかは知り得られぬが然し理屈から言ふて嫡子・庶子・養子の區別なく残らず神統に相違ない蓋し獨り人間ばかりではない動物でも植物でも樹の葉が大きな幹枝から段々分かれ出た如く神系から分岐したもので毛蟲一疋でも偶然に出生するものでない必ず神系に屬するものであるから時には不思議な禍ひもなすのである八百萬の神と申すのは此の事である従つて福を以て報えられる神もあれば禍を以て報えられる神もある大體から言へば正しきものには福(サイハヒ)が報えられ不正のものには禍(ワザハヒ)が報えられるのである。

我々卑賤のものでも父母なくして生れたものは一人もない従つて父母にも亦父母がある其の父母にも亦父母がある其の我れより以前の父母を先祖といふ此の先祖に敬禮を捧げることが祖先崇拜である西洋人には我が肉身と先祖との關係が諒解されて居らぬから祖先崇拜といふ禮式は見えない従つて西洋人の親子の關係は犬や猫の親子の關係の如く極めて漠然たるものであるから親孝行なんて

人間味は西洋人の間には現はれない従つて西洋人は犬や猫の如く個人主義なのである我々大和民族の間には親子の關係が明瞭に發動してゐるから其の結果として父子親あり君臣義あり夫婦別あり長幼序あり朋友信ありの五つの人道が成立してゐるのである。

雄略天皇の御言葉かと思ひ奉るが其の天皇の御言葉に

義は君臣にして情は父子の如し

といふのがある世界に國は澤山あるが個様な御言葉に合致する様な國はどこにあるかのみならず日本帝國は其の昔し皇祖天照皇太神の勅命と三種の神器とを奉戴せられた皇孫の治め固められた國であるから我日本帝國の國土は残らず皇孫の御所有にして我々には其の受用權だけが授けられてあるのでありそして此の日本の國籍に在るものは其の肉體も亦皇孫の御所有であつて我々は皇孫の御命令に服従せねばならぬのである普天の下王土に非ざるなく率土の濱王臣に非ざるなしとは我が日本國のことである。

我日本の皇帝陛下は恐れ多い申し分ではあるが地中海の一孤島「コルシカ」の片田舎から飛び出し帝位を潜稱したナポレオンポナバルトや滿洲あたりから南下し

て帝位を潜稱した支那の皇帝などとは丸で雲泥の相違なのであるはもちろん英國の皇帝でも伊太利の皇帝でも皇帝たる御資格に於ては我日本帝國の皇帝陛下に對し奉つて是れ亦雲泥の相違なのである言葉が少し失禮に渉るかも知れんが日本國以外の國々の皇帝とか大統領とかいふものは言はば成り上りの一類に過ぎぬのである古い話したが露西亞のペートル大帝などは由來の不明な一職工に過ぎなかつたのである「尊い」といふ意味の資質は少しも持てゐなかつたのである。

此の故に日本以外の國には禪讓といふことも行はれ放伐といふことも行はれるのであるが日本には千年萬年決して有るべからざる事なのである。

我が國體を指して世界無比の國體だといふのは是れが爲めである此の義を能く合點する様にすることが國體を明徴にするといふことである。(畢)

昭和十三年八月三十日 印刷
昭和十三年九月一日 發行

編輯 東京市麹町區麹町四丁目三ノ三 恩田重信
發行人 東京市麹町區紀尾井町三番地
印刷所 東京市麹町區紀尾井町三番地 東京印刷株式會社麹町出張所

終

